

第一章 序論

第一章 序論

1-1 本研究の背景

洋傘の供給量は、昭和 50 年以降増加している¹⁾。詳細内容について記載したものが、表 1-1 である。また現在、日本国内だけで年間約 1 億 3000 万本の傘が消費されており、その消費量は世界一である²⁾。鈴木勝好氏によると、世帯あたりの傘所有数は平均 14.2 本と大きい数字となっており、この中の 43%に相当する 6.1 本の傘は、使用されていない傘となっている¹⁾。また、警視庁の調査では、傘は毎年、遺失物順位で上位につけている³⁾。

傘の一生として考えられる流れを示したものが、図 1-1 の左部分である。この中で、傘の貸出しが入る余地として考えられる場所を示したものが、図 1-1 の右部分である。家に保存され使用されていない傘の利用、および忘れ物として駅や店に保存されている傘を傘の貸出し用の傘として使用することができると考えられる。

これらの使用されていない傘や忘れ物となってしまった傘を有効に利用する方法として傘の貸出しが挙げられる。また、傘の貸出しが存在することで、突然の雨に降られた時など傘の購入を減らすことができ、全体の消費量を減少させることができると考える。しかし、傘の貸出しに関する先行研究はなく、実施実態は把握されていない。

本研究では、多くの貸出し形態の中でもより多くの人が利用可能であると考えられる駅での貸出しに注目していく。

表 1-1 傘の年間供給量

年代(年)	年間供給量(万本)
1975~1982	4000~5000
1983~1985	6000~7000
1986~1988	9000
1989~1994	10000~12000
1995	9300
1996	8500
1997以後	10000前後

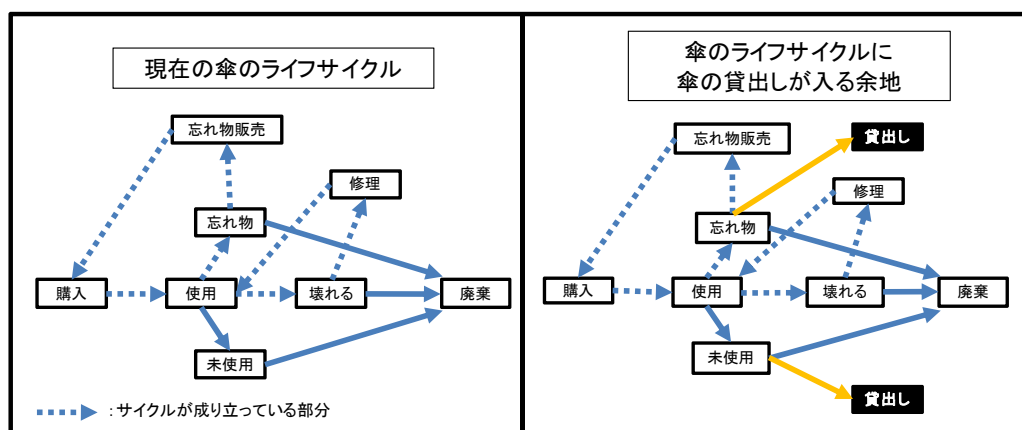


図 1-1 傘のライフサイクルに傘の貸出しが入る余地

1-2 本研究の目的

そこで、本研究の目的は、1) 傘の貸出し実施団体の全体傾向の把握 2) 駅における傘の貸出し利用実態の把握 3) 駅における傘の貸出し拡大の可能性を見出すことの3点である。本研究で言う「拡大」とは、貸出し団体の増加および貸出し回数の増加とする。

1-3 本研究の意義

本研究により、今まであまり知られていなかった傘の貸出し（駅での貸出しを主に）の利用実態および傾向を把握することができる。また、駅における傘の貸出し実施について検討の資料となり、利用回数が多く貸出し団体にとって問題の少ない貸出し方法にするための手掛かりとなるだろう。

1-4 本研究の構成

第一章は、本研究における背景・目的・意義・構成・方法・用語の序論。

第二章は、インターネット調査を行って得られた、傘の貸出しを行っている団体について詳述する。

第三章は、京阪電気鉄道株式会社の駅において実施されている「愛の置き傘」について実施した貸出し利用実態調査の結果について詳述する。

第四章は、第三章で明らかになった結果から、推測の年間貸出し回数および貸出し回数に影響を与える項目を示すことで駅における傘の貸出し拡大の可能性について詳述する。

第五章は、目的に対するまとめと本研究の課題を示し、結論とする。

1-5 本研究の方法

研究の目的を次のような方法で達成する。

(1) 傘の貸出し実施団体の全体傾向の把握

インターネット検索エンジン **Google** によって「傘&貸出し」のキーワードで検索し、貸出し実施団体数を把握する。そして、利用者数や返却率などの情報をまとめた表を作成する。インターネット調査で得られなかった情報については、メールおよび電話、FAX にてヒアリング調査を行っていく。これらの調査を行うことにより、傘の貸出し実施団体の全体傾向を把握する。

(2) 駅における傘の貸出し利用実態調査

北河内地域労働者福祉協議会（以下、北河内労福協）が京阪電気鉄道株式会社（以下、京阪）の協力を得て、京阪の駅で傘の貸出し「愛の置き傘」を行っている。この「愛の置き傘」について調査を行い、貸出し回数や傘の返却率などを把握し、利用実態を明らかにする。

(3) 分析・考察

(1) と (2) の調査を基に、分析・考察を行っていくことで、駅における傘の貸出し利用

実態と拡大の可能性を見出していく。

1-6 本研究の用語

- *傘の貸出し：傘が貸出され返却される行為。置き傘も含む。
- *置き傘：特別な許可もなく，勝手に取りだし返却する形の貸出し。
- *存在本数：貸出されているかどうかに関係なく，記録した本数。
- *貸出し回数：前回調査と比較して無くなっている傘。
- *投入回数：前回調査と比較して増えている傘。
- *返却回数：貸出された傘と同じ傘が返却された回数。
- *投入貸出し比：投入回数を貸出し回数で割った商。この値が 100%であれば，本数を維持できていることを示している。
- *返却率：返却回数を貸出し回数で割った商。
- *返却までの日数：貸出された日から返却までにかかった日数を示す。調査は利用実態調査 I を含むと 1 日 2 回実施したため，0.5 日ごとに表記する。

<参考文献>

- 1) 鈴木勝好著『オンライン洋傘タイムズ』
<<http://www.kasaya.com/times/index.htm>>，2011-2
- 2)雨天けっこうシブカサ—SHIBUKASA—：TOP
<<http://www.shibukasa.com/>>，2009-11
- 3)警視庁：平成 21 年中 遺失物取扱状況
<http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/toukei/kaikei/kaikei_21.htm>，2010-5

